株式会社　ファミリーマート　御中

ベトナム社会主義共和国
ホーチミン市カンザオ区における防災・気候変動
対応能力強化事業

完了報告書（2015 年 5 月～2016 年 6 月）

2016 年 9 月

公益社団法人　セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

Save the Children JAPAN

1.　事業概要

事業名	ホーチミン市カンザオ区における防災・気候変動対応能力強化事業
対象国･地域	ベトナム　ホーチミン市　カンザオ区（小学校 3 校、中学校 2 校）
事業期間	2015 年 5 月 1 日～2016 年 6 月 30 日 ＊期間延長 2 か月
報告期間	2015 年 5 月 1 日～2016 年 6 月 30 日
予算	7,500,000 円
受益者	直接裨益者: 5 歳～14 歳の子ども 3,340 名 間接裨益者: 地域住民約 5,000 名
事業目的	最貧困層の少数民族の災害対応、気候変動対応能力を向上させる。

2.　事業の成果

当事業はベトナムにおける防災・気候変動事業の第 3 期目です。本年度は昨年度に続き、災害が慢性化している都市部（ホーチミン市）で事業を実施しました。
当事業では 1 年間の事業実施を通じ、以下の主な成果を達成しました。

- 活動 1「生徒と教師の防災意識向上による安全な学校づくり」に関しては、対象とする合計５つの小中学校（添付 1 参照）においてそれぞれ防災計画が策定され、2016 年 2 月にカンザオ区教育訓練局へ提出を完了しました。その計画に従って、事業期間中、各学校では防災教育が開始され、全ての対象校において、カリキュラム及び生徒の課外カリキュラムの中で、防災・気候変動について学習する時間が設けられました。事業実施期間を通じ、計 3,340 名の子どもが防災や気候変動の基礎知識を身に着けました。
- また課外活動として、計 15 の防災子どもクラブが立ち上げられ、計 418 名の子どもが定期的に啓発活動を目的とした防災コンテストやイベントなど防災活動に参加しました。洪水を想定した避難訓練も実施され、約 1,000 名の子どもが参加し、避難経路や緊急時の行動について学びました。
- 2016 年 4 月に着衣水泳教室を開始し、2 か月のコースを終え、受講者のうちの 7 割（87 名中 63 名）の子どもが 25 メートル以上泳ぎ、安全な浮き方等の技術を身に着けました。今後も学校によって全生徒を対象に継続していく予定です。
- 活動 2「少数民族および貧困世帯における災害及び気候変動の耐久性の強化」に関しては、コミュニティにおける災害及び気候変動影響リスク調査に基づき、14 世帯の貧困世帯が洪水や高潮が慢性化する地域において、それらに影響を受けやすい水産物（エビ、貝、魚、カエルなど）にのみ生計手段を頼るのでなく、代替生計手段としてヤギの飼育を開始しました。
- 当事業での啓発イベントやコミュニティにおける災害対応及び気候変動影響リスク調査に、延べ 139 名の地域住民が参加し、地域における災害リスクや被害をできるだけ小さくするための対応策など防災・気候変動に関する基礎的な知識を得ました。参加した住民の中には、「事業でもらった啓発ポ

スターを家に貼ったり、近所の水辺を子どもと一緒に見て回ったりして、増水した際の注意事項を確認した」などの声もあり、防災のため行動する住民のケースも報告されています。

上記の結果から当事業を通じ、子ども・地域住民共に防災知識の向上、防災・気候変動に対応するための技術を身に付けたと判断されることから、事業目的である「最貧困層の少数民族の災害対応、気候変動対応能力を向上させる」を達成したと考えます。

3. 活動進捗

当事業の実施期間中に行った主な活動は以下の通りです。

活動 1. 生徒と教師の防災意識向上による安全な学校づくり

1-1 学校及びコミュニティへの防災ガイドブックやマニュアルの配布

視覚教材として、啓発ポスター2,150 枚（大人向け 2,000 枚、子ども向け 150 枚）と絵本 1,500 冊を作成し、全ての対象校および 3 つの対象コミューン（Binh Khanh、An Thoi Dong、Long Hoa ）に配布しました。また第 2 期に作成した防災および気候変動の教材を各学校に 25 冊ずつ配布しました。

今年度の事業で作成した視覚教材

子どもの水難事故防止 大人向け啓発ポスター	子どもの水難事故防止 子ども向け啓発ポスター	子ども向け教材「青蛙と気候変動」
水難事故防止のため大人が子どもに伝えるべきメッセージがのせられています。	溺れないために、すべきこと、してはいけないことについて記しています。	災害リスクを軽減させるために環境を守ることの重要性を訴えています。

1-2 教員及び生徒への安全な学校モデルの普及

■教員向け研修の実施

2015 年 11 月下旬、教員及び行政官向けの「安全な学校モデル」研修[1]を実施し、計 27 名（カンザオ区教育訓練局 2 名、校長、教員など教職員 25 名）が参加しました。同研修はセーブ・ザ・チルドレン及び教育訓練局の職員が講師となり、参加者は自然災害、防災、気候変動対応に関する基本的な知識に加えて、小中学校の教員に対する防災・気候変動に関する教授法、その教材・ツールの使用法、学校における災害対応能力調査、調査で使うツール、調査結果に基づいて作成していく学校の災害対応計画について学びました。

[1]セーブ・ザ・チルドレンとユニセフが、ユネスコ、プラン・インターナショナルなど他の組織・団体と協力して開発した「安全な学校のモデル」は、①安全な学習施設、②学校の防災管理体制、③防災教育の 3 つの柱で構成されています。

■子ども向け研修の実施

2015 年 2 月には、学校が進める安全な学校モデルづくりに子どもが主体的に参加できるよう、計 100 名（各校 20 名）の子どもを対象に研修を行いました。子ども向け研修では、上記教員向け研修に参加した教員が講師を務め、上記教員向け研修で得た知識を、子どもたちが理解できるように分かりやすい内容で伝えました。

■参加型災害リスク調査、安全な学校計画の作成

2016 年 1 月に当事業の対象校である 5 校にて、防災計画（安全な学校計画）の土台となる参加型の災害リスク調査が行われました。この調査には、活動 1-2 の研修に参加した子ども 100 名、各対象校の教員 70 名、子どもの保護者 70 名、地域住民の代表 15 名が参加し、調査のツールである対象地域の災害カレンダーや災害リスクマップ、事業地において過去に発生した災害の歴史の振り返りを行いました。調査を通じて、対象地域には、水路や川、水産物の養殖用の池がいたるところにあり、こうした場所は子どもの水難事故のリスクが高いにもかかわらず、学校・地域双方において、事故防止に向けた十分な対策はとられていない、学校で避難訓練や防災教育が行われていない、地域において注意喚起が十分でないなどの課題があがりました。これを受け、各対象校は保護者や地域住民、子どもたちの意見や情報を参考し、防災教育や地域での啓発イベントを含む防災計画を完成させ、2 月に同計画は区教育訓練局に提出されました。

1-3　防災子どもクラブの設置及びクラブを通じた防災への子ども参加の促進

対象校 5 校で合計 15 の防災子どもクラブが設立され（1 クラブあたり 20－30 名、1 校に 3 クラブ）、小学生 3 年生から中学 2 年生の 418 名（男子 203 名、女子 215 名）が活動に参加しました。同クラブ活動では、上記活動 1-2 で研修を受けた教員の指導の下、月 2 回、放課後にメンバーの子ども達が集まり、歌やゲームを通じて防災および気候変動対応について学ぶ活動を行いました。活動に参加した子どもは、習得した知識を使って、実際に事業地で起こっている洪水などの災害に備えるためにどのような行動をとればよいのか、災害時には何に気を付けて行動すればよいのかなどグループでの議論や啓発ポスター作成などを通じて考え、学びました。クラブ活動での学びは、下記活動 1-6 の学習成果発表会・啓発イベントを通じて、地域住民、子ども約 1,100 名に伝えられました。

1-4　安全な学校のための環境整備の実施

Long Thanh 小学校の敷地内にプールを設置し、その周りにフェンス、屋根を設置しました。当初は、フェンス、屋根の設置の計画はありませんでしたが、教育訓練局および学校側よりプールの水質や子どもの衛生状態を保つため、家畜の侵入や草木がプールの水の中に落ちるのを防ぐために必要との指摘を受けました。当会職員が現状を確認し、その必要性が確認されたことから、フェンス、屋根を設置しました。

1-5　子どもへの着衣水泳教室の実施及びプールの水質管理計画の作成

2015 年 12 月、カンザオ区スポーツ文化センターから講師を招き、当事業の対象校 5 校の体育教員 15 名を対象に、水泳教室の指導者育成研修が行われました。同研修は、教育訓練省による水泳指導の内容に沿って行われた他、応急処置の方法も学びました。4 月初旬に Long Thanh 小学校にプールの設置後、同

研修で育成された教員によって、水泳教室を実施しました。2016 年 4 月から 6 月の 2 か月間で Long Hoa 中学校、Long Thanh 小学校に通う 87 名の子どもたちが基本的な泳ぎ方や水中で浮くための技術などを週 2 回学び、このうち 63 名の子どもが泳げるようになっています。ホーチミン市からの事業承認の取り付けに時間がかかり、着衣水泳教室の開始が遅れたため、当事業期間内では 1 コースのみの実施となりました（泳ぎの基本を学ぶ一通りのコースで所要期間 2 か月となっています）。そのため、現時点では受講者が 87 名となっていますが、Long Hoa 中学校、Long Thanh 小学校が引き続き、全生徒を対象に教室を継続していく予定であり、既に次のコース受講者登録が始まっています。また水質管理に関しては、フェンスと屋根の設置だけでなくコンクリートで舗装された場所にプールを置く、足の汚れで水が汚れることがないよう、歩くところにはマットを敷く、区のスポーツ文化センターの職員が定期的に水質を確認するなどの対応を取った結果、水の衛生は保たれ、子どもが病気になるケースなどは報告されませんでした。

1-6　災害リスクを減らすための知識及び技術の子どもから両親への伝達

2016 年 3 月から 4 月にかけ、活動の総括として、対象校 5 校で防災学習成果発表会、および水難事故防止のためのキャンペーン・イベントを行い、約 1,000 名の子ども、100 名の保護者、10 名のコミューン人民委員会が参加しました。防災子どもクラブのメンバーの子どもや保護者が、当事業を通じて、学んだことを劇や歌を交えて発表し、参加者は、日ごろからの備えや災害時には正しい行動をとっていくことの大切さを、イベントを通じて確認しました。4 月 5 日の Long Thanh 小学校のイベントには、ファミリーマート様ホーチミン事務所の職員の方 3 名にもご参加いただき、職員の方から子どもたちに向け、日本での防災学習の経験、備えの大切さについてメッセージを発信していただきました。

活動 2. 少数民族及び貧困世帯における災害及び気候変動対応の耐久性の強化

2－1　行政との連携確立・強化のための定期会合

第 1 四半期報告書で報告した通り、当事業では行政機関からの事業承認取り付けが遅れたため、2015 年 9 月に関係者を集め、事業の計画を共有し、話し合うための事業立ち上げ会議を実施しました。それ以降、区人民委員会、区教育訓練局、対象の小中学校などの関係者と 2 か月から 3 か月に一度集まり、当事業の進捗、課題や対策について協議する定期会合を実施しました。定期会合を実施することで、政策にかかわる行政官に、緊急時だけでなく、慢性的な災害リスクの削減のための対策も含む当事業への理解を深めてもらうことも目的としました。定期会合に参加していた行政官の中には、子どもクラブの活動や啓発イベントに参加した行政官もおり、教育訓練局の義務教育課の課長からは「嵐や高潮など災害のリスクを最小限に抑えるためにも、防災に対する意識を高め、学校において防災の取り組みを行っていくことは大切だと思います。特に子どもの水難事故防止のための活動は重要であり、引き続きコミュニティ、学校双方において取り組んでいきたい」といったコメントがありました。

2－2　コミュニティにおける災害及び気候変動リスク調査の実施

2016 年 4 月に、コミュニティにおける災害及び気候変動リスク調査を実施し、子ども 48 名、区人民委員会や教育訓練局の職員、地域住民など 33 名が参加しました。カンザオ区では、死者がでるような大きな台風は 2007 年以来発生していませんが、例年 8 月から 12 月までの雨季の間、台風と高潮が繰り返し到

来します。調査時の住民の議論の中では、気候変動の影響で、そうした台風や高潮などの災害が起こる時期や頻度の予測が立たなくなっている懸念が共有されました。また塩害が深刻である一方で[2]、主な生計手段は、塩害や天候の影響を受けやすい水産物の養殖や採取（エビや貝等）に依存している世帯が多いことから、気候変動や塩害などの災害に大きく左右されることのない生計手段の必要性が議論されました。災害に強い農作物の導入も検討されましたが、海や川からとれる自然資源に生計手段を依存する少数民族や貧困層は、十分な土地をもっておらず、また塩害や乾季の水不足も懸念されることから、代替生計手段としては作物よりも家畜の方が適しているという結論になりました。当事業では、代替生計手段として、昨年と同様にヤギが選ばれました。その理由としては、昨年にヤギの飼育を始めた世帯が順調に飼育を継続していること、ヤギの飼育は狭い土地においても可能であること、ヤギの餌となる野草は塩害の影響をあまり受けないこと、ヤギの出産サイクルが 6－8 か月に 1 回と比較的早いことがあげられます。

2－3　少数民族及び貧困世帯に対する災害に強い生業研修の実施

災害に強い生業にヤギの飼育が選ばれたのをうけ、2016 年 5 月、区農業農村開発局の職員を講師に招き、ヤギの飼育研修を実施し、対象とする 3 つのコミューン（Binh Khanh、 An Thoi Dong、 Long Hoa）の 95 名の地域住民（男性 40 名、女性 55 名）が参加しました。参加者は、飼育小屋の設置や管理、ヤギの飼育方法、かかりやすい病気やその予防法について学んだほか、昨年ヤギの飼育を開始した世帯を訪問し、飼育状況を見学し、話を聞くことで更に理解を深めました。

2－4 少数民族[3]及び貧困世帯に対する災害に強い生業の実施

上記研修を受けた世帯のうち、14 世帯がヤギを受け取り（各世帯 2 頭）、2016 年 5 月に飼育を開始しました。上記研修は、代替生計手段としてヤギの飼育に関心のある住民（95 名）を対象にしましたが、裨益世帯は、貧困層でかつ 18 歳以下の子どもがいる世帯の中でも、生計手段をもたず、所得がない状況にある世帯が優先的に選ばれたため、14 世帯となっています。5 月にヤギを提供したばかりであり、繁殖には 6 か月以上かかることから、今年ヤギの飼育を開始した世帯ではヤギの数は増えていませんが、昨年カンザオ区でヤギの飼育を開始した世帯では 4 世帯全て、出産が確認されており順調に育っています。ヤギは食用として 1 キロあたり 400 円から 600 円で売れることから、今後新たな生計手段として期待されており、今後も区農業農村開発局と共にモニタリングを続けていく計画です。

---

[2] カンザオ区の面積の 56.7%が塩害の影響を受けおり、今後気候変動でますますその影響は大きくなるといわれています。https://cmsdata.iucn.org/downloads/bcr_factsheet_can_gio_final.pdf

[3] 当事業の開始当初、事業地で生活する少数民族（ホア族、クメール族）を想定していましたが、キン族と少数民族で結婚するケースが増え、登録上は少数民族の世帯として登録していない世帯が多かったことから、ヤギの選定では、少数民族という基準は入れず、貧困世帯のみにしました。

4.　裨益者の声

タムさん（カンザオ区 Long Hoa 中学1年生）

タムさんはとても積極的な防災子どもクラブの活動メンバーの一人です。タムさんは昨年の防災子どもクラブの活動がとても面白かったので、友達も誘って一緒に参加することにした、と話してくれました。「防災子どもクラブが大好きです。面白くて、役立つ活動がたくさんあるからです。クラブでは、（啓発ポスター用の）絵を描くことや、みんなの前で防災についての発表や自分の意見を言うこともたくさんありました。防災のことだけじゃなくて、プレゼンスキルや絵を描く練習をできたのもとてもよかったです。避難訓練は、初めてだったので、とても怖かったです。でも繰り返しすることで、先生の指示に集中することができ、自分が少しずつ落ち着いて行動できていることが分かりました。繰り返しの訓練が大切なんだと思いました。」

5.　今後の展望

カンザオ区においては、2 年間の事業実施を通じて、活動の実施手法等の行政への移管が進んでおり、区の教育訓練局は、当事業の実施手法をモデルとして、安全な学校モデルを他の学校でも実施していく意欲を示しています。 これまでの学びや成果を活用しながら、2017 年はドンタップ省ホング一郡において防災教育および気候変動対応強化のための活動を実施する計画です。

6.　収支報告

項目	予算金額	支出金額
1. 生徒と教師の防災意識向上による安全な学校づくり	2,372,772 円	2,540,400 円
2. コミュニティにおける災害対応及び気候変動適応能力強化	2,197,663 円	2,259,558 円
事業モニタリング費	341,550 円	216,549 円
交通費	414,000 円	296,549 円
ベトナム人件費	449,075 円	463,750 円
ベトナム事務所運営サポート費	224,940 円	223,194 円
東京本部管理費	1,500,000 円	1,500,000 円
合計	**7,500,000 円**	**7,500,000 円**

7.　活動写真

安全な学校づくりに関する教員研修
（2015 年 11 月 Binh Khanh）

避難訓練時に荷物が濡れないようビニール袋に入れて
避難の準備をする子どもたち
（2016 年 1 月　Long Hoa）

水泳教室
（2016 年 4 月　Long Hoa）

学習成果発表会・啓発イベント
（2016 年 4 月　Long Hoa）

住民に生活状況や環境の変化についてインタビュー
される御社ホーチミン事務所の職員の方々
（2016 年 4 月　Long Hoa）

学習成果発表会・啓発イベントに参加される御社ホーチ
ミン事務所の職員の方々
（2016 年 4 月　Long Hoa）

ヤギの飼育研修
（2016 年 5 月 Binh Khanh）

ヤギを飼育する世帯を見学する研修参加者
（2016 年 5 月　An Thoi Dong）

ヤギの飼育を始める世帯
（2016 年 6 月 Binh Khanh）

ヤギの飼育を始める世帯
（2016 年 6 月 An Thoi Dong）